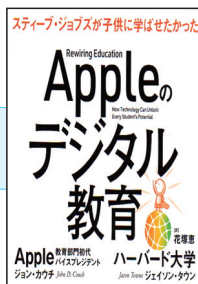


ブック

著者は、「教育は覚えることではない、考え方を学ぶこと」、「コンピュータは思考にとっての自転車」「標準的な生徒というものは存在しない」「標準的な教室で学習させ、標準的な教科書を読ませ、標準テストを受けるといったことを生徒に強要すべきではない」などと述べ、「昨日教えたように今日も教えたなら、子供たちの明日を奪うことになる」というジョン・デューリーの言葉を引き、リワイヤリング(配線のやり直し)を提唱する。

OECDによる国際学習到達度調査(PISA)については、世論調査に近いこと、コンピュータを使う時間が多くほど成績が下がるという結論を、一発のテストの点数重視の古い枠組みから発想していることなどの理由から批判する。そして、その後のVRのように多面的で相互

Appleのデジタル教育



ジョン・カウチ、ジェイソン・タウン 著
花塚恵 訳
1836円 かんき出版
☎03-3262-8015

のやりとりができるようになったテクノロジーの発展を正當に評価していないと言っている。

著者は、最後に、テクノロジーの誤用の現状に対して、次のように警告する。「気をつけていないと、『思考にとつての自転車』構想は、アメリカの教育機関の手で『訓練を繰り返すだけの自転車』にされてしまう。そうなっては、退屈なだけで先がない」。

評者は、「教師の心」よりもテクノロジーを先行させて「訓練の繰り返しツール」にしてしまったり、逆にテクノロジーの導入を妨げたりして、結局、今後の社会に希望を与えるはずの教育の可能性を台無しにしてしまうことを恐れる。プロジェクト型学習をさらに進めて、テクノロジーを組み込み、本書が言うような生徒の裁量を一層に推し進めたより自由で楽しいチャレンジ型学習が実現できれば素晴らしいと思う。

(前聖徳大学教授・西村美東士)